

わはは通信



No.5

わらえる歯 くいばれる歯 しゃべれる歯 2013年12月10日発行

2013年という一年

皆さんにとって今年はどうな年だったのでしょうか？私にとっては生涯においても忘れることができない大きな出来事があった1年でした。多くの方々の支援によりさまざまな事柄を何とか乗り切ることができましたことに感謝いたしますとともに、来る2014年がより良い年になることを願っております。

■ひょうご西宮アイスアリーナの建設・開業

兵庫県井戸知事の肝いりでスケートリンク建設用地を無償でお借りすることができ、7月西宮鳴尾浜にリンクを開業させることができました。この事業のために設立した一般社団法人に理事として関わらせていただきました。

■富士山、ご来光登山

50歳を超えた同級生の仲間と「何かに挑戦しよう」という気持ちを共有し、富士山に登頂しました。残念ながら悪天候のため山頂でのご来光を観ることはできませんでしたが、16名で登頂できました。

■「口元美人」出版

歯科医療の素晴らしさを何とか社会に訴えたいと長年考えてきた思いを書籍の出版という方法で一つの形にすることができました。足立優歯科を通じ、お口の健康を回復維持することで皆様の人生に関わることができましたことを光栄に思いますとともに、皆さんの支えにより新しい歯科医療の在り方にチャレンジできていますことに感謝いたします。

■屋久島、縄文杉登山

仲間との第2の挑戦として屋久島縄文杉への登山をしました。26名の仲間と無事縄文杉を見ることができました。雨の中朝4時に出発し、夕方6時の帰着、24kmを一日で走破するというハードスケジュールでしたが、素晴らしい自然と触れ合うことができる貴重な体験でした。診療所受付には現地の屋久杉工房で特別に作成してもらった、屋久杉を使ったトレーとリングの置物が記念として置いてあります。

感謝！



amazonで購入できます。

病気になる前にアドバイスをしてもらいに行くといいかな… 気軽に歯医者さんに行けたらいいのかなあ。

Mさん 後編

Mさん…お口の病気を予防することは自分の10年、20年先の投資だということは、価値観の違いはなってくるんですけど、でもそういう長い目で考えたらきっちり取り組めば、価値はありますよね。自分の10年、20年先が保障され、なおかつ、なにかあったらすぐに駆け込んでいけるところがあるという安心感はすごいことですよ。

隅田(以下S)…そうです、そうです。

Mさん…そういう意味でも、やっぱり早いうちにやればもっと楽にできるんでしょうし、病気になったらいくところっていう考え方から、病気になる前にアドバイスをしてもらいに行くといいかなあ。考え方をね、変えるっていうことが必要でしょうね。まあ、若い世代の人達なんかは、小学、中学校くらいの時から、病気になったら行くところじゃないんだよっていうね、そういう指導があったり、教育があれば良いと思います。

とにかく健康でね、重篤なこともなく、自分の与えられた生命を生きられたら、それが一番幸せなことなんだろうから、そういうふうな長い目で自分のことをそれぞれ大切にできればいいな～と思います。

足立歯科と出会えて、宝くじに当たった感じで、本当ありがたいと思います。宝くじなかなか当たらないからね～。

いや～あのね、足立先生本当にゆっくりお話を聞いてくださって、こちらの緊張した気持ちがだんだんほぐれてくるというか、「なんでもいいですよ、どんな些細なことでもあったら言ってください。」って優しくおっしゃってくださって、検査結果のお話も一生懸命説明してくださり、よく現状がわかりました。自分の口の中をなんとかしなきゃなんないって思いましたねえ。でも、おどかさばかりではなく、大丈夫です大丈夫ですっておっしゃってくださって、シュミレーションを作っていたら、今よりよくなっていきますというそのお話が説得的だったの

で、覚悟を決めたという感じですね。

歯医者さんに行って、今まで大丈夫ですからってあんまり言われたことなかったの。

S…そうですか、そうですね～。

Mさん…今までは、ここ削りましようとかね、いきなりジージー削られたりして、まあそういうもんだと思っていましたから。ともかくまず、お話をして不安な気持ち、わからないところ、そういうのを受けとめますよ、大丈夫ですよって、そういう波動が伝わってきましたから。やっぱり、恐怖症の人間にとってはお医者さんに“う～ん”って首をかしげられると、もうそれだけで不安になりますから、大丈夫ですよ大丈夫ですよって首を縦に動かしてもらえると安心します。

S…横じゃなくて、縦にねえ～。

Mさん…なんかこう、その時点で治るんだっていう感じがしましたね。まあ、治るっていても、悪くならないことですけども。

S…メンテナンスは3カ月ごとに通っていただいています、感想はございますか？

Mさん…いいと思います。季節ごとにお互いにお会いできますから。

S…近況報告なんかもありますね。

どなたかに、この自分の体験を話すと、そういう機会とかはございますか？

Mさん…あんまりそういう話はないですね。あ～ただね、私甥っ子にし

Mさん

ました。私の甥っ子ですから若いんですけど、口臭がしたんですよ。それで、歯医者さんに行きなさいって言って、東京ですからこちらには来られませんが、言いましたね。歯を磨いたりそんなんでごまかせないよって言いましたね～。若いうちから口臭がするようではね～。

どれだけ恐ろしいことかって知らないでしょうね～。がたがたになる前に、とにかく歯医者さんに行きなさいって言いました。

S…なるほど。

では、治療を受けた時と受けた後とは生活状況に変化はありますか？

Mさん…とにかく治すのは自分ですからって言われましたで、それ本当によくわかる。だからとにかく、歯を磨くってことぐらいい自分でできることってないので。日頃は自分がやらないといけないわけですから。やっぱりきれいに歯石をとって頂いた後ってというのは、あ～きれいになったな、血もあんまり出ないな～ってというのは実感しました。

治療中は磨くのが楽しかったです。徐々に出血もなくなってきましたね。そのうち、出血する方が異常って感じですね。とにかく1日2回朝と晩は必ずやっていて、30分くらいは時間をかけてがんばりました。

S…診療前はあんまり時間をかけてなかったですか？

Mさん…そんなにかけてなかったですね。恐らく、磨いて、べってやったときに出血するのが怖いのと不安なのがあって、だからやりたくないんですよ。で

もやらないとちょっとひどくて板挟みの状態です。やりましたから。だから何度やっても出るものは出るし、これ、やったら出るんだってね。変な解釈をしたりしていました。今では習慣的に1日3回やりますから、自動的に磨けている状態ですね。だから、4回くらいやるときもありますよ～。

S…では、これからも3カ月ごとに検診にお越しいただくということですか？

Mさん…それは心引き締めるためにも、毎回チェックしていただくって、この関門みたいなのがなければ、そりゃあどどん緩んでいきますね～。また、季節ごとにご挨拶って感じで。

S…そうですね。お会いできてお話ができれば楽しいです。

Mさん…本当に申し訳ないんですけど、やっていたいてあるところくらいからガーッと寝てる感じなんですよ。適当に返事してるようで、もう意識は眠っているってくらいにまあ気持ちよくしていただいて、特に歯を磨くっていう工程は、人に歯を磨いてもらうってこんなに気持ちのいいことなかなって、いつも思います。

S…そういう風にリラックスして楽しんでいただけるのなら嬉しいです。

Mさん…人の歯をね、申し訳ないと思いますけどね～。

S…いえいえ、私は喜んで楽しんでやっていますから。今後ともよろしく願います。

Mさん…ありがとうございます。よろしく願います。

S…ありがとうございました。



当院の隅田





医療概念の変遷

医療技術が医学の進歩とともに発展してきていることはどなたでも感じていることでしょう。歯科医療では歯に痛みが出ると歯を抜くという手立てしかなかった時代に代わり、歯を残すための歯の根の治療の方法が確立されました。壊れた歯の治し方においても、一昔前の伸ばした金属を巻きつけて冠を作る方法から、鋳型に溶かした金属を流し込む精密鋳造という方法が取り入れられるようになり、現在ではコンピューターを使って歯型をスキャニングし、機械によって削り出して冠を作るという時代となりました。失った歯については入れ歯という方法しかなかった時代に対し、今ではインプラントという人工歯根が使われるようになり、近い将来においては、再生医学によって歯さえも新たに作り出すことができるような時代が訪れようとしています。このような実際に壊れた口の中を治すという医学の進歩に呼応するかのように、その医学をどのように人格を持った「人」に対して適応させていくのかという点も進化してきたのです。それが医療倫理観でありこれもまた一昔前の考え方とは全く異なるものとなりました。この進化は、医療を行う際に基本的人権をどのように守っていくのかということが厳しく問われるようになったことに由来します。

旧来の医療倫理観は、パターナリズム【親権主義・保護主義・家父長的温情主義】と呼ばれ、古く古代ギリシャのヒポクラテスの言葉にその原点があります。ヒポクラテスは、医療における判断は医療者の行うべきものであるという医療者主導の考え方を提唱し、この考え方の下に展開される医療では、患者さんは医療者の指示を守るという役目が与えられ、決して患者さん自身が医療の方針や内容を決めるといったことはありません。

たとえばあなたが風邪を引いたと感じお医者さんに行ったらとします。あなたは医師に対し「寒気がして、関節も痛い、熱っぽくどうも風邪を引いたと思われ、注射をして、薬を出してほしい」と申し出ました。するとこの医師は、「誰が風

邪と診断したのか？その診断を下すのは私であり、あなたではない。もし私が風邪だと診断すれば、それに基づき、注射や投薬を行う。素人のあなたが診断を下し、治療内容を決めるとは何事か！」といった感覚です。このような状況の背景には医療者が治す人、患者さんが治される人という関係性が確立されているのです。

これに対し第2次世界大戦においてアウシュビッツで行われたナチスの医師によるユダヤ人を使った様々な人体実験【毒ガスを与えた後の人の変化の様子の観察や、生きたままの人体を解剖し観察するなどといった行為】への反省から、後世においてはこのようなことが起らないようにしなければならぬという新しい考えが生まれます。これは後に、1947年のニュルンベルク綱領として制定され、その後医療現場において優先されるべきものは基本的人権の尊重であり、パターナリズムと対極をなす患者中心の医療倫理観として発展しました。そして、1981年第34回世界医師会総会で患者の権利に関する「リスボン宣言」が批准されることとなるのです。さらにその内容は進化を遂げ、1995年第47回世界医師会総会においてすべての医療者が守るべき患者の権利として先に宣言された「リスボン宣言」を改訂し、現在のインフォームドコンセントを中心とした患者中心の医療倫理観が世界標準として批准されるに至りました。

改訂リスボン宣言と患者の権利章典

この通称「改訂リスボン宣言」では、患者の権利を明確に謳っています。医療を受ける際に患者が守られるべき権利には、①医療への参加権、②知る権利と学習する権利、③安全な医療を受ける権利、④最善の医療を受ける権利、⑤平等な医療を受ける権利、そして⑥医療における患者さんの自己決定権、が明記されました。皆さんには馴染みが無いように感じるかもしれませんが、医療現場ではこの宣言に基づいた大きな変化が起こってきています。それが患者さんによるインフォームドコンセントという権利の普及です。

何らかの医療行為を受ける患者さんは、医療者からご自身の病状に対する説明を詳しく受け、さらにはそれに対する治療方法について解説してもらい、自らの意思でどのような治療を受けるかを決定するというやり方です。医療者は考えうるさまざまな治療方法をすべて提示し、その違いも説明しなければなりません。さらにその医療者の説明だけでは納得できない場合には、他の医療者の意見を聞き比較検討する（セカンドオピニオン）ことも積極的に支持しているのです。医療者が決めるパターナリズムとは真逆の、患者が決める医療が現在の標準なのです。

この変化は患者の権利章典というものによりその内容を詳しく知ることができ、もし皆さんが地元の大きな病院に行く機会がありましたら、待合室の壁面を一周して探してみてください。おそらく額に入った状態でこの権利章典が飾られており、内容を知ることができます。また、インターネットで病院のホームページを覗くことができれば、容易にこれを探することもできるでしょう（足立優歯科にも掲示しています）。この患者の権利章典とは、医療者が患者さんに対して行った自らの医療行為の基本を表明したものです。患者さんにはあなたの基本的人権を守られる権利があり、医療者はその権利を侵すことなく、医療に携わるのだということをお知らせし約束しているのです。

つまり、このような患者の権利章典を提示し、その内容に沿って医療を展開することこそが今の医療に求められるもっとも重要な事柄なのです。

日本の歯科医療現場の状況と足立優歯科のチャレンジ

このような世界標準の医療倫理観があるとはいえ、それが日本における医療現場、特に歯科医療現場で適切に運用されているとは言えません。なぜ運用がされていないかについてはまたの機会に解説いたしますが、日本における医療は、憲法第25条の条文に基づき、最低限の社会生活を守るための社会保障制度として、健康保険制度という形の医療が展開されてきました。この制度では、限られた予

算により、相互扶助の仕組みによって医療が提供されます。このためこの制度を基盤とする医療運営は、やむを得ず薄利多売の大量生産型ビジネスとなってしまいました。この運営下では、世界標準として求められる患者さんのインフォームドコンセントを確保するための十分な時間が確保できません。医療者は適切な医療を行うために患者さんへの説明や相談を行う必要がありますが、このために多くの時間を消費したとしても、制度上は全く評価がされず、医療運営における収入には反映しないばかりか、そのことが経営状況を悪化させてしまうのです。

足立優歯科では、このような問題に対し正面から取り組みました。患者さんの権利を守り、世界標準の歯科医療を展開するために必要なことを忠実にやってきたわけです。ただそれには時間がかかることが避けられません。ご経験されたようにお一人の方に対し何時間も時間をかけて、現状を分析し、その情報を伝え、さらには最適最善の方法を模索するという手順を行う必要があるからです。しかしこの足立優歯科が行う医療展開の手順こそが、世界標準の医療倫理観を正しく実践する日本での医療展開モデルとなると考えております。

医療があるべき姿は時代とともに変化します。一昔前までは、腕の良いと言われる先生にすべてをお任せし、先生の指示に忠実に従う患者として振る舞うことがより医療を受ける必須条件とされてきました。しかしこれからは違います。自分の体の事を医療者にしっかりと説明してもらい、理解をし、そのうえで自分自身の希望と一致した医療内容を自分の意思で選択し、そしてその選択により期待どおりの結果を手に入れることができるよう、医療者と二人三脚で努力することが必要なのです。世界標準の医療倫理観を正しく理解し、これからの医療者との付き合い方、またご自身の健康管理に役立てていただければと思います。

足立優歯科 院長 足立優

行ってきました、世界自然遺産の島へ！！

またまた便乗、秋は屋久島へ行ってきました。
11月2日、飛行機・バス・船と乗り継いで昼過ぎに現地へ到着。車で島を1周することに。
途中、落差88mの大川（おおこ）の滝へ。
2日目、メインイベント縄文杉を目指して登山です。朝3時起き、雨の降る中車で移動。さらに登山口までのバス待ちの列に並びながら、朝食のお弁当をかきこみ、いざ出発！
日の出前、ヘッドライトを装着しトロッコ軌道をひたすら歩くこと約2時間半。歩くうちに雨もあがり、すがすがしい山歩きとなりました。
登山道に入っただけ、ウィルソン株の登場。屋久杉の切株の中に入れるようになっていて、頭上を見上げるとハート型の空です♪樹齢1000年以上の屋久杉を仰ぎ見ながら登ることさらに約2時間。屋久島最大級の縄文杉の登場！！推定樹齢2000～7200年といわれているそうです。太古の昔からそびえ立つ圧倒的存在感です。
3日目、皆それぞれの行動で、私は矯正医の土井先生と白谷雲水峽へ。映画もののけ姫のモデルといわれている森です。昼過ぎに出発のため、ゆっくり時間がとれず奥深くまでは行けませんでした。美しい溪流と苔の森、時おり姿を現す屋久鹿に心癒されました。
森の息吹、大自然のパワーをたくさん浴び、感動の3日間でした。（桁尾）



休診日のご案内

毎週日曜日・祝日の他、次の日は休診です。

12月…7(土) 12(木) 19(木)

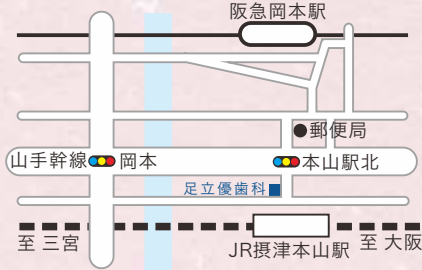
12月27日(金)～1月5日(日)までお正月休みとさせていただきます。
新年の診療は1月6日(月)午後より開始いたします

矯正予約日

12/11(水) 12/25(水) 1/8(水) 1/22(水)

メンテナンス日

12/2(月)



完全予約制 午前9:30～13:00 午後14:30～18:30(土曜は18:00まで)
(休診日)日曜日・祝日/第2・第4木曜/第1・第3・第5土曜



足立優歯科

神戸デンタルドックセンター

〒658-0072兵庫県神戸市東灘区岡本1-3-33

TEL)078-411-0024 FAX)078-411-0056

<http://www.adachi-dental.jp>

講演内容は変更する場合がございます。

無料(歯^の)講演会と個別相談会

「クオリティオブライフはお口の健康から」

デンタルドックの仕組みとその活用法

講師 NPO法人明日の歯科医療を創る会POS 理事長 足立 優
足立優歯科・神戸デンタルドックセンター 院長

1/31^金

13:30～

神戸市立東灘区民センター
8階第1会議室

